オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(200)(HP 収載)
―サントリーホールのトリフォノフ―

１．始めに

前報(199)に引き続き、STAGE+のサントリーホールのトリフォノフの演奏の試聴を実施します。

２．試聴音源

今回は STAGE+のサントリーホールのトリフォノフの演奏を選びました。

ダニール・トリフォノフが《ハンマークラヴィーア》を披露

サントリーホール

収録日: 2024 年 4 月 11 日

2024 年 4 月にクラシックの聖地、東京サントリーホールでライヴ収録された映像です。ダニール・トリフォノフは、ピアノ・ソナタの規模と技術的要求に対する当時の常識を覆した革新的な作品である、ベートーヴェンによる 1818 年の大作ソナタ《ハンマークラヴィーア》を取り上げ、ピアノ・レパートリーにおける究極の挑戦ともいえる刺激的なリサイタルを披露しました。プログラムを彩るのは、フランス・バロックの巨匠ジャン＝フィリップ・ラモーの組曲、広く愛奏されるモーツァルトのピアノ・ソナタ K.332、そして、フェリックス・メンデルスゾーンが当時主流だった「華麗な」変奏曲に対抗して 1842 年に作曲した、ヴィルトゥオーゾ的な《厳格な変奏曲》op. 54 です。

ソリスト:

ダニール・トリフォノフ（ピアノ）

曲目:

ジャン=フィリップ・ラモー　組曲イ短調 RCT 5

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

ピアノ・ソナタ第 12 番ヘ長調 K. 332

フェリックス・メンデルスゾーン　《厳格な変奏曲》op.54

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

ピアノ・ソナタ第 29 番変ロ長調 op. 106《ハンマークラヴィーア》

ジョニー・グリーン　《波止場にたたずみ》(アート・テイタム編)

アレクサンドル・スクリャービン

ピアノ・ソナタ第 3 番嬰ヘ短調 op. 23 より第 3 楽章 ：Andante

フェデリコ・モンポウ　ショパンの主題による変奏曲（抜粋）

３．試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

今回の演奏では、珍しくピアノに FAZIOLI が使われています。

ラモーの組曲イ短調は、優雅な表情が FAZIOLI の柔らかい音で展開していきます。

モーツァルトのピアノ・ソナタ第 12 番は、いつもにトリフォノフの鋭角的な演奏スタイルはなく、愛らしい表情です。

メンデルスゾーンの《厳格な変奏曲》は、題名の厳格という印象が、幾分 FAZIOLI で和らげられて温和な表情も覗かせます。

ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第 29 番《ハンマークラヴィーア》は、リフォノフの鋭角的な打鍵もありますが、FAZIOLI によって、Stanway のような激しい表情はやわらぎ、時として安らぎの表情もみせます。

グリーンの《波止場にたたずみ》、スクリャービンのピアノ・ソナタ第 3 番第 3 楽章、モンポウのショパンの主題による変奏曲（抜粋）は、アンコール曲のようで、グリーンのジャズ調、スクリャービンの詩情のある風情、モンポウのお馴染みのショパンの変奏と、それぞれ味わいが変わります。

４．まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、どの曲も FAZIOLI の特徴がよく現れています。

以上